

「外国人親子への支援と地域住民
とのつながりづくり」モデル事業
実施報告書

令和6年3月

埼玉県教育局市町村支援部生涯学習推進課

目 次

1	はじめに	1
2	本県の現状と課題	1
3	事業の実施期間	2
4	組織体制	
	(1) モデル市の選定	2
	(2) 事業開始時のイメージ（令和2年度）	3
	(3) 「外国人親子への支援と地域住民とのつながりづくり」モデル事業 推進会議	3
	(4) ふじみ野市の組織体制	4
	(5) 熊谷市の組織体制	4
5	事業内容	
	(1) ふじみ野市	5
	(2) 熊谷市	6
6	実施報告	
	(1) ふじみ野市	7
	(2) 熊谷市	15
7	成果と課題	
	(1) ふじみ野市	25
	(2) 熊谷市	26
8	まとめ	26

1 はじめに

近年、在留外国人住民¹⁾が日本全国で増加傾向にあり、本県でも人口の約2.5%を外国人住民が占めている。

本事業開始前に策定された「埼玉県多文化共生推進プラン（平成29年度～平成33年度）～国籍・文化の違いを超えて共に創る活力ある埼玉の実現を目指して～」では、多文化共生社会づくりの推進を図る上での課題として、「ことばの壁」「制度の壁」「こころの壁」の三つの壁に区分されている。

本事業は、こうした壁を除き、外国にルーツを持つ¹⁾親子への支援と地域住民とがつながる仕組みを構築することを目的としたものである。

ことばの壁

外国人住民の中には、日本語能力が十分でない人も多くいるため、日本語が理解できないことや情報が正確に伝わらないことにより誤解が生じることがあります。

日本語を理解して適切な情報を入手し、意思を伝えるコミュニケーションを図ることができるようにすることが必要です。

制度の壁

外国人住民の中には、生活する上での制度を知らない、理解していないことなどを理由に必要なサービスを受けていない人もいます。

外国人住民も住民である以上、日本人と同様に住宅、教育、就労、医療、防災及び防犯など、様々な分野でサービスが受けられることが必要です。

こころの壁

日本人は、相手が外国人住民であると距離を置いたり、コミュニケーションを避けることがあります。一方、外国人住民にも文化や生活習慣の違いから、日本人との積極的な関わりを避ける人もいます。

日本人と外国人住民の双方が共に社会を担うパートナーとして、お互いを理解し尊重し合うことが必要です。

図1【本県の多文化共生を進めるに当たっての課題 埼玉県多文化共生推進プラン（平成29年度～平成33年度）】

2 本県の現状と課題

本事業開始前の平成30年（人口：180,762人、県人口に占める割合：2.47%）と比較して、令和4年6月（人口：205,824人、県人口に占める割合：2.80%）の県内在留外国人は25,062人、人口比率は0.33ポイント増加した。人口減少時代の現在では、在留外国人人口の増加に比例して、その人口比率もますます上昇することが予想される。多文化共生社会の実現には、外国にルーツを持つ親子への支援が不可欠となる。

¹⁾ 在留外国人住民、外国にルーツを持つ：「在留外国人住民」については、国籍が日本以外の住民を指している。一方、「外国にルーツを持つ」は、在留外国人の他、父・母の両方、またはそのどちらかが外国出身者である子供（日本国籍、二重国籍、無国籍等）も含む。

社会全体で在留外国人住民や外国にルーツを持つ住民への理解が深まり、当たり前のように共生できる社会を築いていくことが、本県の課題である。

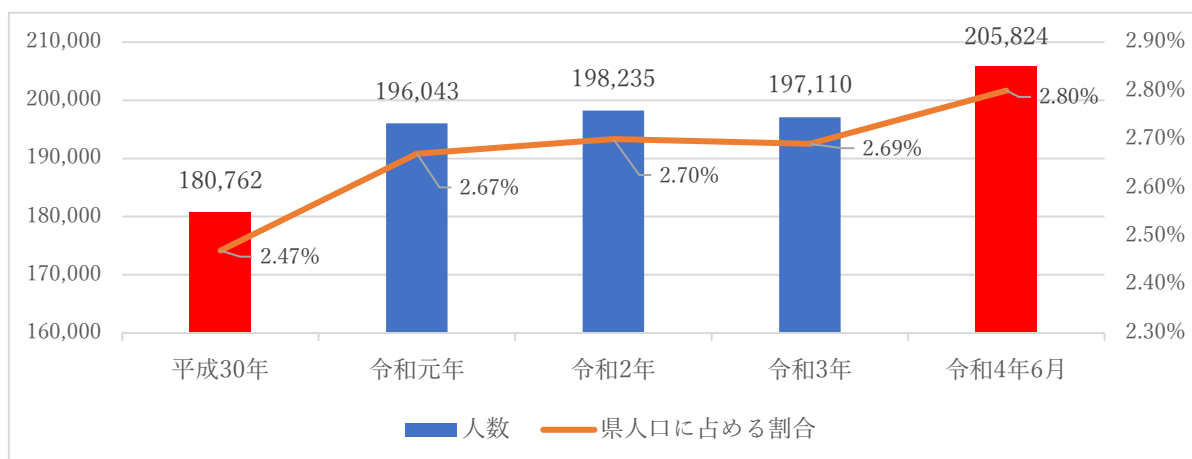


図2 【県内の在留外国人人口と比率の変容】

3 事業の実施期間

令和2年4月1日～令和5年3月31日（令和2年度から令和4年度まで）

4 組織体制

(1) モデル市の選定

県内63市町村のうち、ふじみ野市及び熊谷市の2市をモデル市として選定した。

ふじみ野市は、平成17年に旧上福岡市と旧大井町が合併して誕生した市で、埼玉県の南西部に位置しており、人口は約113,000人（令和5年1月1日時点）、面積14.64km²である。都内からの距離も近く、ベッドタウンとして発展しており、外国にルーツを持つ住民も増えている。①本県の在留外国人住民の割合が県民全体の約2.5%であるのに対して、同市は市民全体の約2.6%とほぼ同程度の割合と標準的であること、②地域の在留外国人住民への生活支援、日本語指導等、多文化共生の街づくりを目的に活動している「ふじみの国際交流センター（FICEC）（以下、「ファイセック」という。）」があることが、モデル市とした主な理由である。

熊谷市は、埼玉県の北部に位置しており、人口は約192,000人（令和5年1月1日時点）、面積159.82km²と人口、面積ともに県内では上位である。在留外国人住民の割合は県平均を下回る1.8%であるが、同市は①近年急速に外国にルーツを持つ児童生徒の転入が増えていること、②多文化共生に関して特に関心の高い小学校があったことが、モデル市とした主な理由である。

なお、本事業は、モデル2市である、ふじみ野市教育委員会及びふじみ野市立西小学校、熊谷市教育委員会及び熊谷市立玉井小学校にモデル事業として委嘱した。

(2) 事業開始時のイメージ (令和2年度)

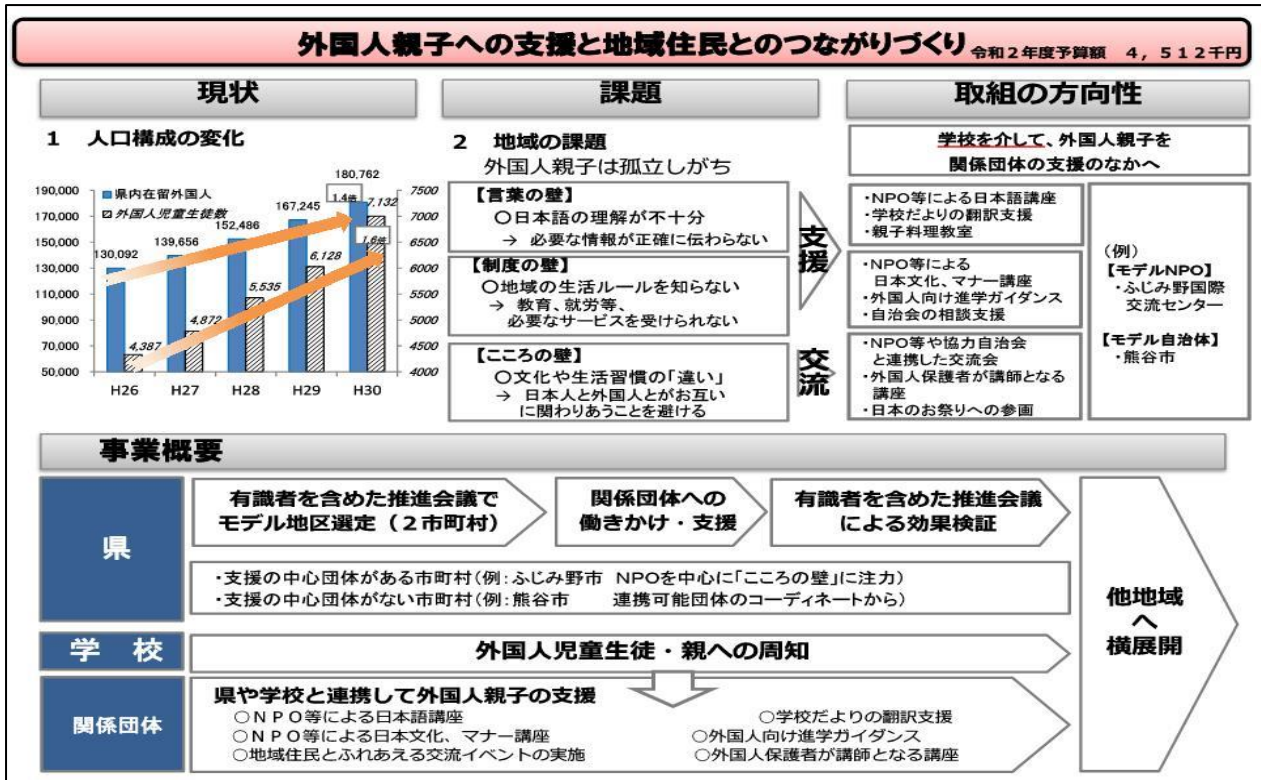


図3 【外国人親子への支援と地域住民とのつながりづくり概念図】

(3) 「外国人親子への支援と地域住民とのつながりづくり」モデル事業推進会議

「外国人親子への支援と地域住民とのつながりづくり」モデル事業推進会議は、事業の効果的な実施を図るために、専門的見地から指導、助言を行うことを目的に、令和2年4月に設置された。委員は5名以内で組織されており、委嘱の基準は①学識経験者、②外国人支援に関し専門的知識を有する者、③学校教育関係者、④その他、社会教育に関し識見を有する者となっている。

【委員一覧】

委嘱の基準	氏名	役職
学識経験者	坂口 緑	明治学院大学社会学部教授 埼玉県社会教育委員会議議長 (令和元年8月4日～令和5年8月3日)
外国人支援に関し専門的知識を有する者	田村 和彦	埼玉県国際交流協会業務執行理事兼事務局長 (令和2・3年度)
	近藤 一幸	埼玉県国際交流協会業務執行理事兼事務局長 (令和4年度)
外国人支援に関し専門的知識を有する者	高柳なな枝	地球っ子クラブ2000代表
学校教育関係者	下山 彰夫	埼玉県家庭教育振興協議会会長 元上里町教育長 元中学校長
社会教育に関し識見を有する者	川端 貴雄	埼玉県PTA連合会副会長(令和2年度)
	斎藤 貴一	埼玉県PTA連合会副会長(令和3年度)
	船橋 幸代	埼玉県PTA連合会副会長(令和4年度)

日 程	内 容
令和2年 7月7日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・事業内容について ・事業実施に当たっての留意事項等について意見交換
令和3年 2月15日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・事業進捗状況について意見交換 ・次年度以降の方向性について意見交換
令和3年 7月2日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度のモデル市における取組内容について意見交換
令和4年 3月3日(木)	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度のモデル市における取組状況及び次年度の取組内容について報告
令和4年 6月28日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル市における取組内容について意見交換
令和5年 3月3日(金)	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間の総括について

(4) ふじみ野市の組織体制

所 属	氏 名	役 職
ふじみ野市立西小学校	佐藤 公誠	校長 (令和2年度・3年度)
	榎本 崇	校長 (令和4年度)
	鈴木 孝雄	教頭 (令和2～4年度)
ふじみ野市立 上福岡西公民館	森 和也	館長 (令和2年度)
	庄司 朋彦	館長 (令和3年度)
	佐々木拓郎	館長 (令和4年度)
ファイセック	江 科	ふじみのつながりコーディネーター
ふじみ野市教育委員会 学校教育課	篠原 宏典	指導主事 (令和2～4年度)
ふじみ野市教育委員会 社会教育課	太田 恵子	主任 (令和2・3年度)
	近藤 彩香	主事 (令和4年度)
西部教育事務所	吉川 恭子	社会教育主事兼指導主事 (令和2・3年度)
	永井 智弘	社会教育主事兼指導主事 (令和4年度)

(5) 熊谷市の組織体制

所 属	氏 名	役 職
熊谷市立玉井小学校	大谷 裕紀	校長 (令和2～4年度)
	手島 守	教頭 (令和2年度)
	篠田かなえ	教頭 (令和3年度)
	木下 友子	教頭 (令和4年度)
武蔵野美術大学	杉浦 幸子	造形学部芸術文化学科教授
	米徳 信一	造形学部芸術文化学科教授
熊谷市教育委員会 学 校 教 育 課	深澤 信也	指導主事 (令和2年度)
	杉山 良一	指導主事 (令和2～4年度)
北部教育事務所	藤村敬一郎	社会教育主事兼指導主事 (令和2・3年度)
	陽遊 真史	社会教育主事兼指導主事 (令和4年度)

5 事業内容

(1) ふじみ野市

ふじみ野市では、地域の様々な関係機関と連携し、それぞれの長所や魅力を生かして「緩やかな連携」による多文化共生社会の実現に向けて取り組んだ。

学校との連携や保護者の相談窓口として、ファイセックに在籍する中国出身のスタッフをコーディネーターとして委嘱した。



図4 【ふじみ野市の組織図】

ア アンケート調査による実態把握

事業開始に当たり、外国にルーツを持つ保護者とふじみ野市立西小学校の教職員、ふじみ野市の日本語適応指導員にアンケート調査を実施した。実態から課題を把握して、解決に向けた取組を推進した。

イ ふじみ野市教育委員会の取組

学校教育課では、外国にルーツを持つ児童生徒への支援を更に充実させるために、市内の日本語適応指導員、外国にルーツを持つ児童生徒の担任を対象に「日本語指導研修会」を開催した。

外国にルーツを持つ児童生徒への指導上の困りごとや、日本語指導の方法、外国にルーツを持つ児童生徒とのコミュニケーションの難しさ等の課題を共有し、その解決策について協議した。

ウ ふじみ野市立西小学校の取組

「総合的な学習の時間 (西小タイム)」における「外国とのつながり」の分野について、多文化共生を意図した指導計画に工夫した。

4年生の授業では、ファイセックのスタッフをゲストティーチャー²⁾として招いた。

エ ふじみ野市立上福岡西公民館の取組

(ア) 「こどもにほんご教室」の取組

外国にルーツを持つ子供に対し、日本語教室ボランティアスタッフが日本語指導を行った。また、折り紙や絵本等を使って、日本文化等に親しむ活動を行った。

外国にルーツを持つ子供たちは、平日は学校で、土曜日はファイセックで日本語を学ぶ機会をもてる。そのため、公民館では日曜日に日本語教室を開催した。

(イ) 西公民館まつりの活用 (令和4年度)

住民の多文化共生の理解を促進するため、「衣 (民族衣装)」を通して外国文化に

²⁾ ゲストティーチャー：学校等の依頼を受け、主として授業をする者以外の地域人材や保護者等が自身の特技を生かし、指導にあたるボランティア講師

触れるイベントを実施。埼玉県国際交流協会と連携し、23か国分、計50着の民族衣装を用意して、試着体験や写真撮影をした。

オ ファイセックとの連携

西小学校での学校生活の様子を動画撮影し、1日の日本の学校生活が理解できる工夫をした。動画を視聴することで、1日の生活の流れが分かるDVDを制作した。ふじみ野市内の外国人が多く使用する言語(英語・中国語・ベトナム語・ネパール語)で翻訳をつけた。

(2) 熊谷市

熊谷市では、熊谷市立玉井小学校を中心に、外国にルーツを持つ親子が、日本の生活に慣れ親しみ、溶け込むことができることを目的に、保護者や住民、大学の協力を得て、多文化共生社会の実現に向けて取り組んだ。

ア 「イングリッシュプレイパーク」(令和2年度)

玉井小学校で実施した児童アンケートの結果から、日本人児童も中国やベトナム等の外国にルーツを持つ児童も共通して学びたい言語が英語であったことから、英語での制作説明を行いながらものづくりを行うことで、国籍や言語の枠を超えた人間関係の構築を目指した。イベントでは熊谷市のALT3名を講師とし、すべて英語での説明による、クリスマスリースづくりを実施した。

イ 国際交流支援教室「つなカフェ」(令和3・4年度)

令和2年度末に、地域の外国人住民及び外国人への支援、教育に携わる人を支援するためのスペースとして、玉井小学校の一室に「熊谷市多文化共生支援コーナー」を設置した。熊谷市多文化共生支援コーナーを更に活用するために、熊谷市が取り組む「くまなびスクール」(学習主体の放課後子供教室)の開催時間に合わせて、「つなカフェ」を実施した。「つなカフェ」とは、人と人との「つながり」と安心できる居場所としての「カフェ」の言葉を基にしたものである。「つなカフェ」では、熊谷市の日本語指導補助員3名が支援員として、外国にルーツを持つ小中学生の日本語指導や宿題支援を行った。

ウ 「玉井小の生活の様子」動画の撮影・翻訳(令和3・4年度)

日本語指導が必要な児童が転入した際に視聴させることで、日本の学校生活について理解を図るため、一日の学校生活の様子を撮影した動画を、7分程度のダイジェストにして多言語(英語・タガログ語・韓国語・スペイン語・中国語・ポルトガル語・タイ語)に翻訳して制作した。

エ 多文化共生講演会(令和4年度)

「こころの壁」の打破に向け、日本人の保護者、地域住民等を対象とした取組として、在外教育施設(海外の日本人学校)での勤務経験のある教員や指導主事、外国にルーツを持つ元スポーツ選手による「多文化共生講演会」及び「多文化共生トークショー」を計5回開催した。

日本と外国の生活の違いや、自分のルーツである国と異なる国で暮らすことで感じた困り感等について講演を行うことで、日本という外国で住む外国からの地域住民の気持ちを理解する意識の醸成を図った。

オ 多文化共生イベント（令和4年度）

武蔵野美術大学と連携して、多文化共生イベントを開催した。「オ・ドーレ玉井宿」の演舞、「似顔絵を描こう」「暗唱発表会」「外国語でハッピーバースデーを歌おう」等、アートをテーマに多文化共生について考えるイベントを実施した。

カ 玉井小学校における関連事業

玉井小学校では、本事業の委嘱を受け、高校見学等のキャリア教育や外国語活動、授業の工夫に取り組んだ。

高校見学等のキャリア教育については、主に「高校見学」と「進路キャリア講演会」を実施した。5年生児童を対象とした熊谷工業高等学校の見学、6年生児童を対象とした熊谷農業高等学校の見学を実施した。また、6年生児童及び保護者に対しては、熊谷西高等学校を招き、進路キャリア講演会を実施した。

6 実施報告

（1）ふじみ野市

ア アンケート調査による実態把握

本事業を進めるに当たり、外国にルーツを持つ保護者とふじみ野市立西小学校の教職員、ふじみ野市の日本語適応指導員にアンケート調査を実施し、実態把握に努めた。また、結果を受け、モデル事業を通して解決に向けた取組を推進した。

（ア）外国にルーツを持つ保護者からのアンケート結果

- ・ 学校からの便りを読むことが困難。
- ・ 保護者同士のコミュニケーションに苦労している。
- ・ 翻訳の支援が欲しい。
- ・ 保護者同士の交流が欲しい。
- ・ 相談できる人や相談できる場があるとよい。

（イ）ふじみ野市立西小学校の教職員からのアンケート結果

- ・ 日本語の理解が難しい児童には、母国語を話せる方の一対一での日本語指導があるので、児童に応じてお願いすることが必要であると思う。
- ・ 日本語指導の時間をもう少し設けてほしい。
- ・ 保護者の日本語能力の程度が分からないので、基準を設け、年度初めに把握できるとよい。（アンケートを行う等）
- ・ 担任一人では負担が大きいので、親に対する日本語支援があれば助かる。
- ・ 英語や中国語以外の言語を母国語とする方に対して、日常的な連絡を翻訳して、伝えられる支援があるとよいと思う。
- ・ 校内で相談できる場や相談できる人がいると安心できると思う。

(ウ) ふじみ野市日本語適応指導員からのアンケート結果

- ・ 日本語の支援は週3日あるとよい。(最初の半年間)
- ・ 放課後に宿題の支援があると、もっとよいと思う。
- ・ 保護者に対して、通訳者がいる先生との面談を充実してほしい。
- ・ 学校や地域の中で、児童一人一人が、自らかけがえのない大切な存在であると認識、実感し、自分の母語、母文化、母国に対して誇りをもって日本で生活、そして学校生活を送れるような配慮や支援も大切なこととして考え、対応していきたいと思っている。

イ ふじみ野市教育委員会の取組

ふじみ野市教育委員会学校教育課では、外国にルーツを持つ児童生徒への支援を更に充実させるために、市内の日本語適応指導員、外国にルーツを持つ児童生徒の担任を対象に、「日本語指導研修会」を開催した。

外国にルーツを持つ児童生徒への指導上の困りごとや、日本語指導の方法、外国にルーツを持つ児童生徒とのコミュニケーションの難しさ等の課題を共有し、その解決策について協議した。

また、令和3年度はファイセック代表の石井ナナエ氏に、令和4年度は地球っ子クラブ2000代表の高柳なな枝氏に講話していただいた際、「外国にルーツを持つ人にとって、相談できる場が地域に複数あることが望ましい」「外国人の周りにいる日本人が『分からない』ことを知ることが大事」といった話があった。

さらに、参加した教職員からも、以下のような意見や感想があった。

【困り感】

- ・ 児童生徒は日本語での日常会話はできても、試験での学習言語能力が不安。説明した内容がどこまで伝わっているか分からない。
- ・ 行事等の説明が保護者に十分に伝わっていない。もしくは伝わっているのか分からない。
- ・ 提出物について、いくら説明しても伝わらないのか、提出物が受け取れない。
- ・ 繰り返し説明しても意図が伝わっているか分からないことが多く、その子一人にかかりつきりになることも時間的に難しいので、どの学級担任も対応が難しい。

【感想】

- ・ 普段なかなか情報共有ができないため、横のつながりができてよかった。
- ・ 公民館やファイセックを紹介することで、徐々に日本語の能力が向上し、教室での対応が減った。
- ・ 休み時間に友達と過ごす時間が作れるようになったことで、交友の輪が広がった。



図5 【日本語指導研修会】

また、意思の疎通の問題の解決策として、スマートフォンを活用し、アプリを通してお互いの意見を確実に伝える等の対応をする方法をとる教員もいた。

ウ ふじみ野市立西小学校の取組

西小学校は、「総合的な学習の時間(西小タイム)」における「外国とのつながり」の分野について、多文化共生を意識した指導計画へと見直した。

4年生の授業では、地域で活躍するファイセックのスタッフをゲストティーチャーとして招き、直接話を聞くことで、児童にとって身近なところに外国とつながっていることを実感させ、「多文化共生社会の実現」を自分たちの課題として、外国とのつながりに対し関心を高めることができた。

授業では、フィリピン、韓国、ロシア出身の3名のゲストティーチャーが自分の生まれた国の様子、日本との文化の違いや言語の違いについて説明した。

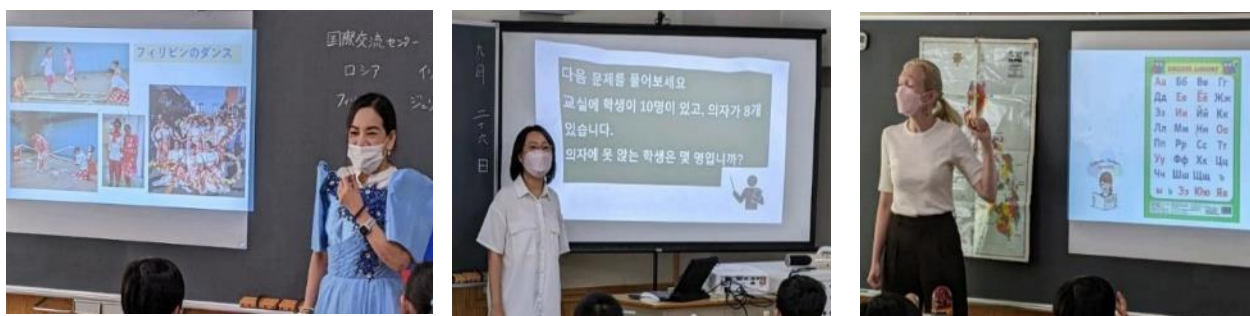


図6 【4年生「総合的な学習の時間」ゲストティーチャーによる授業】

エ ふじみ野市立上福岡西公民館の取組

(ア)「こどもにほんご教室」の取組

ふじみ野市立上福岡西公民館は、西小学校区に所在し、ファイセックからも徒歩で数分の場所に位置している。

「こどもにほんご教室」では、外国にルーツを持つ子供に対し、日本語教室ボランティアスタッフが日本語指導を行っている(令和4年度は46回開催し、延べ78人の学習者が利用)。

教科書にふりがなを振ったり、宿題の補助をしたりして、子供たちの学習支援を行っている。また、宿題が終わった後には折り紙や絵本等を使って、日本文化等に親しむ活動を行っている。

外国にルーツを持つ子供たちは、平日は学校で、土曜日はファイセックで、日本語を学ぶ機会をもてる。そのため、公民館では日曜日に日本語教室を開催することにした。

その結果、地域の子供たちにとって「日本語が学べない曜日がない」ようになった。参加する親子からは「学校以外でも日本語を勉強することができて嬉しい」「子供が勉強している間、日本での生活で困ったことを相談することができて安心」といった意見があった。



図7【「こどもにほんご教室」の取組】

こどもにほんご教室

●目的
 外国にルーツを持つ子どもは、日本語が分からないことで学校の授業についていけない、友達をつくりにくい等の問題を抱えている。その子どもたちに日本語の学習や、日本語が理解できないことで遅れがちな教科を学べる機会を提供する。

●活動内容
【日 時】 毎週日曜 10:00~11:30
【場 所】 上福岡西公民館
【指導体制】 日本語教室ボランティアスタッフ
 (主婦、会社員、元教員、学生等)
【内 容】 日本語指導、学校の補習・宿題の補助、学習者親子と日本人スタッフの交流事業

教室の様子

交流事業で七夕飾りの作成

図8【「こどもにほんご教室」の概要】

(イ) 西公民館まつり (令和4年度)

多文化共生推進に向けたイベントの実施について検討をした際、3F (Food: 食べ物、Festival: お祭り、Fashion: 服装) が人々を惹きつける点であるという意見があった。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、「食」を通して外国文化に触れるイベントの開催は困難であった。

そこで「衣 (民族衣装)」を通して外国文化に触れることとした。

上福岡西公民館での公民館まつりでは、埼玉県国際交流協会と連携し、23か国分、計50着の民族衣装を用意して、「世界の衣装を着て写真をとろう！」を実施した。来場者が試着したり写真を撮ったりする場を設け、地域住民が多様な国々の文化や風土に触れ、日本との違いについて、理解が深まる機会を提供した。



図9【民族衣装】



図10【パンフレット】

また、来場者には「世界のあいさつを知ろう！」「民族衣装から分かること」のパンフレットを配布し、体験活動と学びを関連させた。

当日は、延べ119人が民族衣装を体験し、参加した人からは「色々な国の本物の服を着ることができて楽しかった」「色合いや飾り物一つ一つに意味があるのだと感じた」といった感想があった。

また、「どうすれば、国籍を問わず、みんなと仲良くなれると思うか」のアンケート（自由記述）を実施したところ、29人から回答があり、以下のとおり分類できた。

- ・ あいさつをする（8人）
- ・ イベントを通して、お互いを知るきっかけをつくる（8人）
- ・ 思いやりの気持ちで接する（6人）
- ・ 一緒に過ごす、遊ぶ（4人）
- ・ その他（地域のルールに従うこと、文化を大切にする、気軽に翻訳ができればよい）（3人）

オ ファイセックとの連携

図11はファイセックを利用する在留外国人の悩みごとの内訳を分類したグラフであり、「教育（学校等）」に関する相談件数が最も多いことが分かる。

学校生活の相談内容には、「手提げ袋とはどんなものか」や「学校生活について誰に相談したらよいか分からない」等、動画を視聴することで解決できる内容も多い。また、ファイセックの日本人スタッフでも、今の小学校の持ち物等について分からないことも多く、相談されても回答できないことがあった。

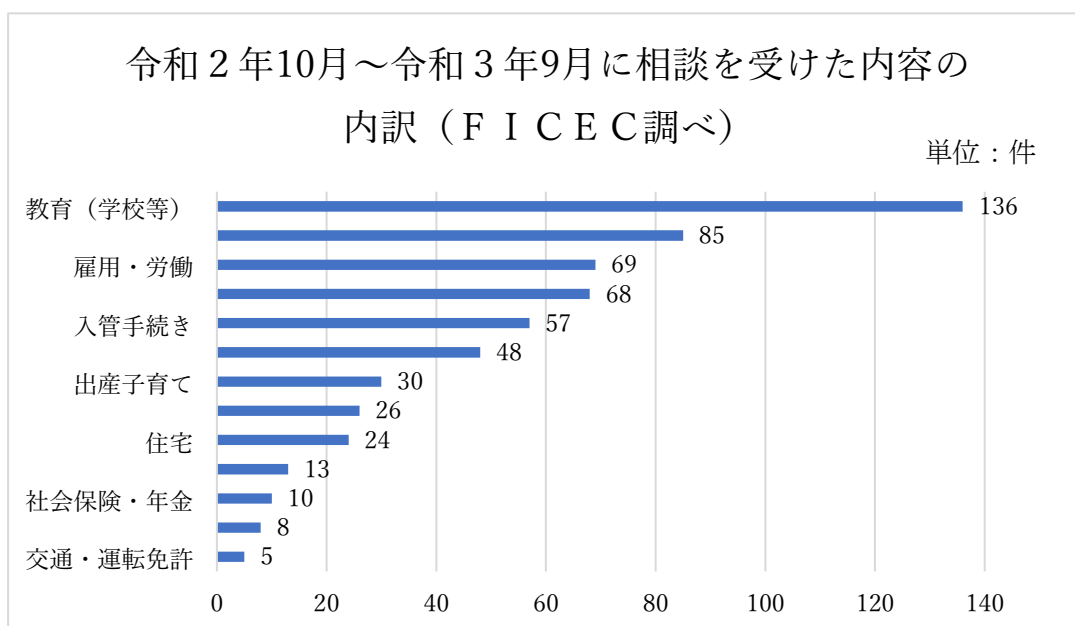


図11【FICECに寄せられた在留外国人の悩み事一覧】

そこで、西小学校での生活の様子を動画撮影し、ふじみ野市内の外国人が多く使用する四つの言語（英語・中国語・ベトナム語・ネパール語）に翻訳し、学校の1日の流れが分かるDVDを制作した。

西小学校に限らず、ふじみ野市内の小学校に通う外国にルーツを持つ児童やその保護者も転入前に視聴することができるので、事前に抱える学校生活への不安を軽減し、安心して通学できる環境づくりに寄与することができた。



図12【DVD（ふじみ野市版）】

カ ふじみ野市における関連事業

「やさしい日本語まちさんぽツアーガイド」

ふじみ野市教育委員会社会教育課では、市民大学で学んでいる受講生を対象に「やさしいにほんご講座」を実施し、その受講生の中から希望者に対し「やさしい日本語まちさんぽツアーガイド」を開催した。

参加者は自分たちでコースを考えながら、地域に住む外国にルーツを持つ方に対し、どうすれば伝わりやすく、やさしい日本語で市内の散策コースを説明することができるか6回の講座の中で検討を重ねた。実際にコースを歩いてみたり、在日歴の長い外国にルーツを持つ方と一緒に歩いたりすることで、より伝わりやすいガイドの仕方について、研鑽を深めた。

7回目の講座であるツアー本番当日の参加者は日本人23人、外国にルーツを持つ方19人で、5コースに分かれて市内各コースを散策した。コースは地域の観光地を散策するものもあれば、ガイドブックに載っていないような神社を散策するコース等、参加者のアイデアにあふれたコースとなっていた。

説明する際には「参拝」を「おまいり」にする等、やさしい日本語で説明したり、日本人が実演したりすることで、外国にルーツを持つ方に分かりやすい説明を行った。

また、神社に入る前に参加者の宗教観を確認したり、立ち寄った地元の老舗総菜店では、宗教上食べられる食材について確認をする等、文化的な背景にも気を配る様子が見られた。

終了後は振り返りをし、よりよいガイドのためにどのような工夫ができるか、次はどのようなコースで計画できるか等、次のツアーに向けた計画を立てた。



図 13 【やさしい日本語まちさんぽツアーガイド】

【ふじみ野市 3 年間の歩み】

令和 2 年度

日 程	内 容
10 月 29 日 (木)	外国人親子つながりづくり実行委員会 ・学校とコーディネーターとの関わりについて意見交換 ・今後の方向性について意見交換
11 月 13 日 (金)	事業推進に係る打合せ (ふじみ野市教育委員会、上福岡西公民館、県生涯学習推進課) ・講座の運営について意見交換
11 月 19 日 (木)	第 1 回ふじみ野市「外国人親子への支援と地域住民とのつながりづくり」モデル事業打合せ ・本事業に関する状況調査結果について意見交換 ・今後の方向性について意見交換
1 月 27 日 (水)	外国人親子支援事業打合せ (Zoom) ・第 1 回ふじみ野地域つながり講座の中止と来年度の予定について報告
3 月 17 日 (水)	事業推進に係る打合せ (ふじみ野市教育委員会、県生涯学習推進課) ・今年度の振り返りと次年度の予定について意見交換

令和 3 年度

日 程	内 容
5 月 21 日 (金)	第 1 回外国人親子支援事業全体打合せ (Zoom) ・関係機関、担当との顔合わせと情報交換

6月29日(火)	第2回外国人親子支援事業月例打合せ (Zoom) ・関係機関、担当との情報交換
7月26日(月)	第3回外国人親子支援事業月例打合せ (Zoom) ・関係機関、担当との情報交換
8月10日(火)	第4回外国人親子支援事業月例打合せ (Zoom) ・関係機関、担当との情報交換
8月23日(月)	ふじみ野市日本語指導研修会 (Zoom) ・講師：ファイセック代表 石井 ナナエ氏
9月14日(火)	第5回外国人親子支援事業月例打合せ (Zoom) ・オンライン講座の開催についての意見交換
10月27日(水)	第6回外国人親子支援事業月例打合せ (Zoom) ・文京学院大学との連携について意見交換
11月12日(金)	第7回外国人親子支援事業月例打合せ (Zoom) ・関係機関、担当との情報交換
12月13日(月)	第8回外国人親子支援事業月例打合せ (Zoom) ・学校生活に関する動画の撮影について意見交換
1月26日(水)	第9回外国人親子支援事業月例打合せ (Zoom) ・動画の視聴について意見交換 ・オミクロン株拡大に伴う、3月講座の開催について意見交換
2月28日(月)	第10回外国人親子支援事業月例打合せ (Zoom) ・DVDの内容についての確認
3月15日(火)	第11回外国人親子支援事業月例打合せ (Zoom) ・次年度の取組について意見交換

令和4年度

日 程	内 容
5月27日(金)	第1回外国人親子支援事業月例打合せ (Zoom) ・今年度の取組について協議
6月14日(火)	「こどもにほんご教室」視察(西部教育事務所、ふじみ野市教育委員会、上福岡西公民館、県生涯学習推進課) ・上福岡西公民館の視察と意見交換
6月21日(火)	第2回外国人親子支援事業月例打合せ (Zoom) ・夏季休業中の取組予定について意見交換
7月22日(金)	第3回外国人親子支援事業月例打合せ (Zoom) ・事業成果の発表に向けた意見交換
8月23日(火)	ふじみ野市日本語指導研修会の開催 ・講師：地球っ子クラブ2000代表 高柳 なな枝氏
9月1日(木)	第4回外国人親子支援事業月例打合せ (Zoom) ・夏季休業中の関係機関の取組と公民館祭りの準備について報告
9月11日(日)	上福岡西公民館まつり ・「外国の衣装を着て写真を撮ろう！」の会場運営 第1回やさしい日本語まちさんぽツアーガイド

9月25日(日)	第2回やさしい日本語まちさんぽツアーガイド
9月27日(火)	第5回外国人親子支援事業月例打合せ (Zoom) ・市町村生涯学習・社会教育主管課長等会議におけるモデル事業の成果発表内容について協議
10月2日(日)	第3回やさしい日本語まちさんぽツアーガイド
10月16日(日)	第4回やさしい日本語まちさんぽツアーガイド
10月18日(火)	第6回外国人親子支援事業月例打合せ (Zoom) ・市町村生涯学習・社会教育主管課長等会議におけるモデル事業の成果発表内容の確認と発表練習
10月21日(金)	市町村生涯学習・社会教育主管課長等会議において、モデル事業の取組内容について発表
10月30日(日)	第5回やさしい日本語まちさんぽツアーガイド
11月6日(日)	第6回やさしい日本語まちさんぽツアーガイド ・おさんぽに行こう1
11月27日(日)	第7回やさしい日本語まちさんぽツアーガイド ・おさんぽに行こう2(本番)
12月15日(木)	第7回外国人親子支援事業月例打合せ (Zoom) ・関係機関の取組について情報交換 ・本事業による変容と今後の課題について情報共有
2月1日(水)	第8回外国人親子支援事業月例打合せ (Zoom) ・関係機関の取組について報告 ・今後の展望についての情報交換
3月9日(木)	第9回外国人親子支援事業月例打合せ (Zoom) ・3年間のモデル事業について報告(県) ・これからの外国人親子支援に向けて

(2) 熊谷市

熊谷市では、モデル事業の推進に当たり、「つながりづくりプロジェクト会議」を設置し、事業運営に関する協議を重ねた。

「つながりづくりプロジェクト会議」は武蔵野美術大学、北部教育事務所、熊谷市教育委員会、熊谷市立玉井小学校によって構成し、外国にルーツを持つ親子が、日本の生活に慣れ親しみ、溶け込むことができることを目的として設置した会議である。

ア 「イングリッシュプレイパーク」(令和2年度)

玉井小学校で実施した児童アンケートの結果から、日本人児童も中国やベトナム等の外国にルーツを持つ児童も共通して学びたい言語が英語であったことから、英語での制作説明を行いながらものづくりを行うことで、国籍や言語の枠を超えた人間関係の構築を目指した。イベントでは熊谷市のALT3名を講師とし、すべて英語での説明による、クリスマスリースづくりを実施した。

参加者は当初、学年が異なることや、講師が外国人ということに不安を感じていたが、講師と一緒にアイスブレイクを行うことにより、関係づくりを行うことができ、打ち解けることができた。

講師と参加者が打ち解けたところで、ファシリテーターを交代し、外国人講師が中心になって人間関係づくりを行った。参加者を3グループに分け、順次講師を交替させながら3種類のプログラムを行った。

クリスマスリースづくりでは、講師はすべて英語で作り方を説明し、児童たちは講師と会話をしながら制作を行った。リース完成後は、作品発表の時間を作り、参加者は英語で、工夫した点について話し合う等を通して交流を深めた。講座の間に、保護者と外国人ボランティアが交流した。外国人ボランティアが、日本での生活で困っていること、これから協力できそうなこと等を情報交換することによって、外国人が住む地域の日本人として、どのような支援ができるか、どのような困り感があるのかを知ることができた。



図14【「イングリッシュプレイパーク」の活動】

○ アンケート結果（参加者の声）

- ・ 普段あまり話さない違う学年の人ともたくさん話せた。英語の勉強にもなったので良かった。
- ・ 色々なゲームやリース作りを先生たちと一緒にできて嬉しかった。英語が少し話せて嬉しい。
- ・ とても楽しかったし、英語を話して仲を深める時間がとれて嬉しかった。今度やる時も絶対にやりたい。
- ・ 色々な国の人たちと話せて、すごく分かりやすかった。

イ 国際交流支援教室「つなカフェ」（令和3・4年度）

令和2年度末に、地域の外国人住民及び外国人への支援、教育に携わる人を支援するためのスペースとして、玉井小学校の一室に「熊谷市多文化共生支援コーナー」を設置した。地域の外国人住民、外国にルーツを持つ児童生徒が、生活相談、困りごとの相談をしたり、学習や進路相談をしたりするとともに、外国にルーツを持つ方への支援者や教員の助けになるような情報が集まるスペースである。

熊谷市多文化共生支援コーナーを更に活用するために、熊谷市が取り組む「くまなびスクール」（学習主体の放課後子供教室）を開催する時間に合わせて、国際交流支援教室「つなカフェ」を実施した。「つなカフェ」とは、人と人との「つながり」と安心できる居場所としての「カフェ」の言葉を基にしたものである。「つな

カフェ」では、熊谷市の日本語指導補助員3名が支援員として、外国にルーツを持つ児童生徒の日本語指導や宿題支援を行った。

活動内容は主に宿題の支援と日本語指導が中心であり、それぞれが持ち寄った宿題を支援員が手厚く指導することで、宿題や課題を終わらせることができていた。

玉井小学校教職員の話では、授業中に理解できない点を、昼休みに担任が一对一で対応して宿題指導を行っていた取組が、つなカフェに通うことにより、その必要がなくなり、児童が休み時間に友達と過ごすことができることで、友達関係も有効に築くことができるようになったようである。また、教職員が昼休みに対応不要となったことによって負担軽減にもつながったという副次的な効果もあったという声もあった。

また、「ことわざかるた」や「漢字の成り立ちかるた」、「折り紙」等、学級ではあまり取り組めない、日本語や日本文化に触れた遊びに触れることで、利用者同士のコミュニケーションを図ったり、遊びながら日本語に触れたりすることができた。

その他にも、七夕の季節では「くまなびスクール」に参加している他の児童と一緒に七夕のビデオを視聴し、一緒に短冊に願い事を書く活動や、節分の時期には鬼のお面の作成や豆まきゲームを行う等、日本文化や年中行事に触れる活動をすることもできた。

(ア) 活動記録

令和3年度 令和3年11月15日～令和4年3月7日

延べ参加者数：36人

令和4年度 令和4年4月25日～令和5年2月13日

延べ参加者数：111人

(イ) 「つなカフェ」の感想（担任、児童、保護者） 【令和3年度末】

【担任】

- ・ 漢字テストの合格が増えた。それが好循環につながっている。また学習意欲の向上につながっている。
- ・ 中学校進学に不安をもっているので、勉強する場や相談できる場があることが、ありがたい。
- ・ 業務改善につながっている。今までは練習等を休み時間にみていたが、それがなくなった。
- ・ 保護者の不安軽減にもつながり、担任への質問が少なくなった。
- ・ 宿題をやってくることで児童が休み時間に余裕もてるので、他の児童と遊ぶことができる。ペア等もスムーズにできる。
- ・ できることが増えているので保護者も喜んでいる。
- ・ 「つなカフェ」の回数を増やしてほしい。他の学校にもあるとありがたい。どうしても外国にルーツを持つ児童は埋もれてしまう。

【児童】

- ・ 「つなカフェ」は楽しい。みんなでカルタなどができて楽しい。
- ・ 教科書にフリガナを振ってもらったので役に立った。
- ・ 宿題が分かるようになった。都道府県が読めるようになった。
- ・ 授業中に話すことができるようになった。
- ・ いろいろな考えができるようになった。

【保護者】

- ・ 母語が中国語なので家で宿題を見るのは難しい。「つなカフェ」は日本語の勉強ができるので、本当にありがたい。

- ・ ちょっとした相談もできるので、自分にとってもとても助かる。
- ・ コミュニティがなく情報が入ってこないので、「つなカフェ」で情報共有できるのありがたい。
- ・ 今度は高校入試の制度について教えてもらいたい。

(ウ)「つなカフェ」の満足度（児童生徒、保護者、支援員、学校）【令和4年度末】

a 満足度

選択肢	児童生徒	保護者	支援員	学校	合計
満足	7	3	4	6	20
不満足	1	0	0	0	1
満足度	87.5%	100.0%	100.0%	100.0%	95.2%

b 「つなカフェ」に参加しての変容

(児童生徒)

選択肢	回答数	割合(%)
ア 宿題ができるようになった	5	45.5%
イ 授業が分かるようになった	3	27.3%
ウ 変わったことはなかった	2	18.2%
エ 他に何かあれば教えてください	1	9.1%

エの内容：・遊び道具を増やしてほしい。

(保護者)

選択肢	回答数	割合(%)
ア 宿題を積極的にやるようになった	2	50.0%
イ 学校のことを家で話すことが増えた	1	25.0%
ウ 変わったことはなかった	0	0.0%
エ 他に何かあれば教えてください	1	25.0%

エの内容：・楽しくて毎週行きたいと言った。

(支援員)

選択肢	回答数	割合(%)
ア 宿題をやる習慣がついた	3	33.3%
イ 授業を理解できるようになった	2	22.2%
ウ 変わったことはなかった	0	0.0%
エ 他に何かあれば御記入ください	4	44.4%

エの内容：・自身の勉強になった

- ・ 異学年で交流ができてよかった。また、玉井小学校以外の児童生徒も参加し、交流ができてよかった。
- ・ 学年が違う同士と一緒に学んで一緒に遊んで、コミュニケーションがよくなったと思う。
- ・ 日記等、口で言ってから書いたり、質問の答えを書いてもらったりすることで（使える）文の数が増えてきた。

(学校)

選択肢	回答数	割合(%)
ア 宿題が積極的にやる習慣がついた	5	45.5%
イ 授業を理解することができるようになった	3	27.3%
ウ 変わったことはなかった	0	0.0%
エ その他	3	27.3%

エの内容：・異学年との関わりの中で、上級者としての役割意識や上級学校での生活の見通しが得られ、良い刺激を受けていた。

・自分より下の子の面倒を見る姿が見られた。

・支援員の先生と学習することで、苦手な作文にも意欲的に取り組むことができた。

c 「つなカフェ」でやってほしかったこと

(児童生徒)

- ・折り紙
- ・宿題が終わったらタブレットを使いたい。
- ・9教科の(指導が)できる先生が欲しい。
- ・(宿題が)終わったらかくれんぼ(をしたい)。

(保護者)

- ・日本語&会話
- ・かくれんぼ

(支援員)

- ・支援者は、日本語の学習者に対して、分からないところもあるので、「つなカフェ」を通して研修や学習の仕方等を学べる機会があるとよいと思う。
- ・外国にルーツを持つ児童生徒以外の児童ともっと交流できるとよいと思う。
- ・声を出して読む、書く時間を増やしてほしい。

(学校)

- ・外国にルーツを持つ児童生徒以外の子との交流がもっとできればよかったと思う。
- ・日本の文化について学ぶ活動がもっとできればよかったと思う。



図 15 【「つなカフェ」の様子】

ウ 「玉井小の生活の様子」動画の撮影・翻訳（令和3・4年度）

1日の学校生活の様子を撮影した動画を、7分程度のダイジェストにして多言語（英語・タガログ語・韓国語・スペイン語・中国語・ポルトガル語・タイ語）に翻訳し、日本語指導が必要な児童が熊谷市に転入した際に視聴させることで、日本の学校生活についての理解促進に活用している。

エ 多文化共生講演会（令和4年度）

「こころの壁」の打破に向け、日本人の保護者、地域住民等を対象とした取組として、在外教育施設（海外の日本人学校）での勤務経験のある教員や指導主事、外国にルーツを持つ元スポーツ選手による「多文化共生講演会」及び「多文化共生トークショー」を計5回開催した。

講演の開催に当たり、外国での生活を経験した職員や、留学生として日本での生活を経験した方を講師とした。日本と外国の生活の違いや、自分のルーツである国と異なる国で暮らすことで感じた困り感等について講演を行い、外国で住むということについて地域住民の理解の深化を図った。

講演日程	講演内容
9月9日（金）	小鹿野町立両神小学校 校長 手島 守氏 「在外教育施設（バンコク日本人学校）の経験から語る多文化共生について」
9月16日（金）	熊谷市立桜木小学校 教頭 小川 義人氏 「在外教育施設（ボコタ日本人学校）の経験から語る多文化共生について」
11月1日（火）	埼玉パナソニックワイルドナイツコーチ ホラニ・龍・コリニアシ氏（トンガ出身） 「外国と日本の違いを語るトークショー」

11月4日（金）	熊谷市教育委員会学校教育課指導主事 箱田 健一氏 「在外教育施設（ミラノ日本人学校）の経験から語る多文化共生について」
11月11日（金）	熊谷市立玉井小学校 校長 大谷 裕紀氏 「在外教育施設（カイロ日本人学校）の経験から語る多文化共生について」

○ アンケート結果（参加者の声）

- ・ 講師の話にもあったが、私も海外に暮らしていた際に交流会を開いてもらった。日本の文化を知ってもらう機会にもなった。
- ・ 文化の違いがあることを分かった上で外国の方と積極的に関わっていききたい。
- ・ 歩み寄りが大切。自分がしてもらって嬉しいことはどの国でも同じである。
- ・ 多文化共生を目指すために現在足りないこと、必要なことを考えるきっかけとなった。外国人だからといって特別な対応をすることではなく、気に掛けること、心でつながろうとすることが大事だと理解した。
- ・ 講演を聞き、間違っているなら間違っていると優しい日本語で話してほしいということが理解できた。コミュニケーション能力を私たち自身が身につけて、交流していききたい。
- ・ 海外で日本人がどのような姿で見られているかという話を聞き安心した。怖がらずに他の国の人と関わっていききたい。



図 16 【多文化共生講演会】

オ 多文化共生イベント（令和4年度）

武蔵野美術大学と連携し「多文化共生イベント」を開催した。「オ・ドーレ玉井宿」の演舞、「似顔絵を描こう」「暗唱発表会」「外国語でハッピーバースデーを歌おう」等、アートをテーマに、多文化共生について考える時間を持つことができた。

「似顔絵を描こう」は、イベントに参加している児童と保護者が二人組になり、無言で描くワークショップである。このワークショップでは、対話をせずに相互に相手の顔を描く活動を通して、「相手を知る」「大切に思えてくる」という多文化共生について大切なことを、参加者に気付かせる機会となった。

活動日程	活動内容
9月13日（火）	武蔵野美術大学の様子、学生の様子の撮影 その後、撮影した様子を玉井小学校児童に放映
10月13日（木）	多文化共生プレイイベント オンラインを活用し、武蔵野美術大学 杉浦教授主導により、玉井小学校児童が大学生の似顔絵を描く体験
11月13日（日）	多文化共生イベント

○ アンケート結果（参加者の声）

- ・ 多文化共生イベントにアートを持ってきたのは素晴らしい。アートは言語の壁を超えるし、年齢も関係ない。
- ・ 言葉が通じなくても分かり合えるのは大事です。より多くの文化に触れられる機会があるとよい。
- ・ 似顔絵を描くということは、話をするのとは違う感覚で、お互いの顔を見つめる時間があり、不思議と自然に距離感が縮まる感じがした。
- ・ 多文化というとなんか難しく考えていたが、そもそも人と人とのコミュニケーションも該当することに気付かされた。子供達も何か気付いてくれたらと思った。
- ・ 相手を知る（理解）ことと同じくらい、（日本文化も含め）自分を知ってもらいたい気持ちも大切だと思う。
- ・ 似顔絵でペアを組んだ子が、その後の暗唱で舞台上に立った時、心の中で応援している自分がいた。



図 17 【多文化共生イベント】

カ 玉井小学校における関連事業

玉井小学校では、本事業の委嘱を受け、高校見学等のキャリア教育や外国語活動、外国語授業の工夫に取り組んだ。

高校見学等のキャリア教育については、主に「高校見学」と「進路キャリア講演会」を実施した。5年生児童を対象とした熊谷工業高等学校の見学、6年生児童を対象とした熊谷農業高等学校の見学を実施した。また、6年生児童及び保護者に対しては、熊谷西高等学校を招き、進路キャリア講演会を実施した。

ものづくりの様子や農業・畜産の様子を実際に児童に見せることにより、高等学校の魅力を感じてもらおうことを狙った。外国にルーツを持つ児童を含め、学力等から進学先を考えるのではなく、教育内容等から進学先を考えるという気持ちを小学生の段階から醸成し、中学校に進学できるよう、近隣の小学校とも連携しながら本事業を進めた。なお、参加した児童からは「この高校で勉強して家建てたい」や「自分の夢を叶えるために必要なことを勉強できる学校を探してみたい」など、将来について考えるきっかけになったという声があった。

また、外国語活動や外国語授業では、英語と日本語の読み聞かせをする工夫をした。一例として、「ぼく モグラ キツネ 馬」の絵本を活用し、英語の絵本と日本語の絵本を交互に読むことを繰り返した。そうすることにより、児童は自然に内容を捉えることができることから、抵抗なく楽しむことができるようになったり、外国語の絵本を自ら手に取るようになったりし、外国の言葉や文化に対する関心・意欲が高まった児童が増えたという結果となった。

【熊谷市3年間の歩み】

令和2年度

日 程	内 容
11月13日（金）	第1回つながりづくりプロジェクト会議 ・つながりづくり講座内容について
11月30日（月）	第2回つながりづくりプロジェクト会議 ・つながりづくりプロジェクト講座、イベント内容について ・「つなカフェ」の実施について
12月19日（土）	玉井つながりづくりプロジェクト講座開催 ・「イングリッシュプレイパーク」（英語でリースづくり）
3月13日（土）	玉井小学校外国人支援コーナーの整備

令和3年度

日 程	内 容
4月22日（木）	第1回つながりづくりプロジェクト会議 ・令和3年度の事業計画について ・横断幕の作成について
10月8日（金）	熊谷農業高等学校見学（玉井小学校6年生児童）
10月14日（木）	第2回つながりづくりプロジェクト会議 ・「つなカフェ」の運営について

11月15日(月)	「つなカフェ」開講 2人参加
11月22日(月)	「つなカフェ」 3人参加 ・熊谷工業高等学校見学(玉井小学校5年生児童)
12月13日(月)	「つなカフェ」 5人参加
12月20日(月)	「つなカフェ」 5人参加
1月17日(月)	「つなカフェ」 5人参加
1月26日(水)	熊谷西高等学校によるキャリア講演会 (対象:玉井小学校6年児童及び保護者)
2月7日(月)	「つなカフェ」 5人参加
2月14日(月)	「つなカフェ」 3人参加
2月21日(月)	「つなカフェ」 3人参加
3月7日(月)	「つなカフェ」 5人参加

令和4年度

日 程	内 容
4月25日(月)	「つなカフェ」 4人参加
5月9日(月)	「つなカフェ」 5人参加
5月16日(月)	「つなカフェ」 6人参加
5月23日(月)	「つなカフェ」 6人参加
6月6日(月)	「つなカフェ」 6人参加
6月20日(月)	「つなカフェ」 6人参加
7月11日(月)	「つなカフェ」 6人参加
8月10日(水)	事業推進に係る打合せ(武蔵野美術大学、熊谷市教育委員会、玉井小学校、生涯学習推進課) ・多文化共生イベントについて
9月5日(月)	「つなカフェ」 2人参加
9月9日(金)	第1回多文化共生講演会 52人参加
9月12日(月)	「つなカフェ」 6人参加
9月13日(火)	武蔵野美術大学の様子、学生の様子の撮影 その後、撮影した様子を玉井小学校児童に放映
9月16日(金)	第2回多文化共生講演会 42人参加
9月26日(月)	「つなカフェ」 8人参加
10月3日(月)	「つなカフェ」 7人参加
10月13日(木)	多文化共生イベント(アートを通じた「武蔵野美術大学(教授・学生)」と「玉井小学校児童」の交流)
10月17日(月)	「つなカフェ」 8人参加
10月21日(金)	市町村生涯学習・社会教育主管課長等会議において、モデル事業の取組内容について発表
11月1日(火)	第3回多文化共生講演会 33人参加
11月4日(金)	第4回多文化共生講演会 26人参加
11月11日(金)	第5回多文化共生講演会 46人参加
11月13日(日)	多文化共生イベント(アートを通じた「武蔵野美術大学(教授・学生)」と「玉井小学校児童」の交流) 170人参加
11月21日(月)	「つなカフェ」 7人参加 熊谷工業高等学校見学(玉井小学校5年生児童)

11月28日(月)	熊谷農業高等学校見学(玉井小学校6年生児童)
12月5日(月)	「つなカフェ」 6人参加
12月12日(月)	「つなカフェ」 5人参加
1月16日(月)	「つなカフェ」 6人参加
1月25日(水)	熊谷西高等学校によるキャリア講演会 (対象:玉井小学校6年生児童及び保護者)
1月30日(月)	「つなカフェ」 7人参加
2月6日(月)	「つなカフェ」 3人参加
2月13日(月)	「つなカフェ」閉講 7人参加
2月21日(火)	つながりづくりプロジェクト会議メンバーによる3年間の振り返り会議

7 成果と課題

(1) ふじみ野市

【成果】

- ・これまでも学校、教育委員会、ファイセック、公民館等が個々に外国人親子を支援してきたが、今回実施した「研修会」「にほんご教室」「公民館まつり」等を通じて外国人親子の支援に関して、市内関係諸機関に緩やかなつながりが生まれた。住民の相談に対して、迅速に連携し合い対応することができるようになった。
- ・公民館において日本語の学習機会がなかった日曜日に「こどもにほんご教室」を実施することで、外国にルーツを持つ子供たちに対して、切れ目なく日本語を支援することが可能となった。また、同席していた保護者にとっても、子供が日本語を勉強している間に、日本での生活で困ったことなどを相談する機会となり、保護者への支援にもつながることができた。
- ・西小学校では、これまで外国にルーツを持つ児童への対応等担任教諭が抱える悩みごとの相談先がわからず困っていたが、ファイセックや公民館と連携し、直接相談できるようになったことで、迅速に対応できるようになった。
- ・外国にルーツを持つ方等に対して市内の歴史等のガイドとなるための養成講座である「やさしい日本語まちさんぽツアーガイド」を開催し、参加した地元の方々に対して積極的に関わる気持ちを養成することができた。

【課題】

- ・外国にルーツを持つ子供や保護者の増加を見込んだ、日本語スタッフの確保。
- ・公民館等での「日本語指導ボランティア講座」や「やさしいにほんご講座」を活用した、協力者やスタッフの育成。
- ・住民相互が交流し理解を深め合う機会を増やし、日本人と外国にルーツを持つ住民の間にある「こころの壁」を取り除く、さらなる取組の工夫。
- ・地域に住む外国人親子にとって住みやすい街づくりをするため、関係諸機関の緩やかなつながりを継続し、地域全体で理解促進を図る工夫。

(2) 熊谷市

【成果】

- ・学校を核とした事業を通し、外国にルーツを持つ親子だけでなく、教職員、児童生徒、保護者、地域住民にとって多文化共生について考える機会となった。
- ・「つなカフェ」の取組では、児童生徒、保護者、支援員のいずれも満足度は高く、特に、参加した児童生徒にとって「宿題等の学習面」において理解が進んだ。
- ・玉井小学校を会場としたつなカフェの取組が、近隣の小学校や中学校の児童生徒に広がり、異なる学年や学校の児童生徒同士でも相互の理解が深まる取組となった。
- ・「イングリッシュプレイパーク事業」は、参加した児童が地域の外国人と顔見知りになったほか、参加した保護者同士の交流の機会となった。
- ・多文化共生講演会では、日本の生活での当たり前とは違った視点を知ることができ、在留外国人住民の気持ちを理解する機会となった。
- ・多文化共生イベントでは、アートによるコミュニケーションを通して言葉の垣根を超えて分かり合う体験ができ、人間関係作りの大切さが実感できた機会となった。

【課題】

- ・継続した国際交流支援教室の検討。
- ・国際交流支援教室における、児童生徒同士が積極的に関わり合える時間の工夫。
- ・学校生活紹介DVDでは、体調が悪い時に休むことができる「保健室」や「トイレ」の使い方にも触れることや、視聴は海外からの転入生だけに限定せずに新1年生に対しても効果的であるという声を反映した改訂版の検討。
- ・地域の親子で参加できる多文化共生イベントは、人間関係の理解を深め考え方を豊かにする機会として、イベント内容を工夫しながら毎年継続した開催の検討。

8 まとめ

二つのモデル事業では、学校を核とした外国にルーツを持つ児童生徒の支援を主軸に、保護者や地域住民を巻き込みながら、多文化共生社会に向けた理解促進を図った。

学校と様々な団体（NPO、公民館、大学等）が連携した取組は、参加した親子からは「相談をする機会が持てるようになって良かった」「多文化共生について考える機会となった」「言葉が通じなくても分かり合えることが大切だと分かった」などおおむね満足である声を聞くことができた。

地域住民同士のつながりを継続するために、「学校と公民館」、「学校と地域」の連携のみならず、地域における様々な人や団体が相互かつ有機的に結び付くことは効果的である。

モデル事業としては、令和4年度をもって終了するが、今後、外国人親子への支援と地域住民とのつながりづくりを推進していくために、以下のとおり取り組む。

- (1) 県のホームページを活用し、本事業の取組について広く発信する。
- (2) 県が実施する生涯学習・社会教育主管課を対象とした会議や研修の場において、取組状況並びに成果と課題について、周知を図る。
- (3) 県内市町村の多文化共生に関わる取組について情報収集をするとともに、参考とな

る事例を他の市町村に提供する。

- (4) 各市町村の求めに応じ、モデル事業で培ったノウハウや成果と課題等の情報を提供し、助言する。

本事業の取組や成果等を県内市町村に周知を図る等、より一層の多文化共生社会の実現に努めることが県の責務である。

「ことばの壁」「制度の壁」「こころの壁」という多文化共生社会づくりの推進を図る上での課題とされる三つの壁をなくし、地域社会とのつながりづくりを進めるため、県と市町村とのネットワークを構築し、多文化共生に関する様々な情報や取組を共有するとともに、市町村が地域の実態に応じた取組を推進できるよう支援していく。